

59 一般病棟の重症度,医療・看護必要度

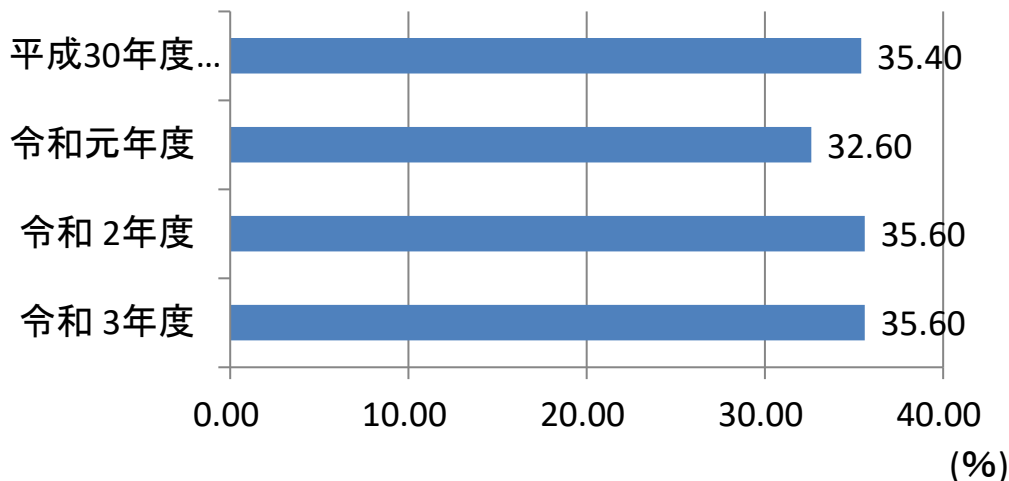
解説

これは、一般病棟における重症度,医療・看護必要度に基づく、重症患者の基準を満たす割合を示す指標です。急性期の入院医療における患者の状態に応じた医療及び看護の提供量の必要性を反映する指標になります。重症患者の割合が高いことは、急性期医療において、より医療ニーズ(手術,処置等)や手厚い看護(看護の提供量)の必要性が高い患者を多く受け入れていることを表します。つまり、この指標が高い医療機関は急性期医療に貢献していると考えられます。ただし、診療科の構成やICUの病床数等にも影響を受けやすいため、目安の1つとして捕える必要があります。

なお、診療報酬において、7:1入院基本料(看護師1名が入院患者7名を受け持つ体制)を算定するためには、各医療機関が対象となる病棟において「重症度,医療・看護必要度」を測定し、基準を満たす患者の割合を届け出る必要があります。

平成30年度より定義の見直しを行ったため、3年分の数値を提示しています。

実績



定義

以下の式で算出します。

$$(A\text{項目}2\text{点以上かつ}B\text{項目}3\text{点以上}, A\text{項目}3\text{点以上または}C\text{項目}1\text{点以上の該当患者延数}) \div \text{一般病棟在院患者延数}$$